

第6期夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議(第3回)
日時	令和8年3月3日(火)18時30分~20時30分
出席	金子恵、出口彩弓、阿部渉、乙幡京子、山口聡、高田由利香、樋口睦子、土方崇、平野静香、米原立将、佐藤米子、小松佳世子、上野耕介、山中ゆう子、坂下香澄、土屋美津子、山下陽子、飯野心咲、大平明宙、清水優輝(委員名簿記載順・敬称略) [事務局] 矢ノロ子ども家庭部長、平川子ども政策課長、井田子ども政策係長、高野加藤保育課長、大沢庶務係長、林給付係長、岡保育指導支援係長
欠席	田野倉宏美、秋山俊、綾部敬之、北島宏晃、伊東祐也、住吉あゆみ、山下主晴(委員名簿記載順・敬称略)
配布資料	資料1 保育提供体制の確保のための実施計画 資料2 乳児等通園支援事業者の認可について 資料3 市内幼稚園の新制度への移行について 資料4 家庭的保育室の概要(はなのめ保育園) 資料5-1 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査(小学5年生) 資料5-2 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査(中学2年生)
会議場所	立川市役所 302 会議室

1. 保育提供体制の確保のための実施計画

- ・事務局より資料1に基づき、保育提供体制の確保のための実施計画について説明。
- ・国からの依頼と提出期限が非常にタイトであったこと、また提出期限が2月上旬だったことから、既に提出済みとなっていることを報告。

2. 乳児等通園支援事業者の認可について

(1) 事務局より、資料2に基づき、乳児等通園支援事業者の認可について説明。小規模保育施設1施設、幼稚園型認定こども園2施設、幼稚園3施設の計6施設での実施を予定している旨を説明。

(2) 委員の方からの主な意見

Q 東京都の補助金を活用しているとのことだが、補助金が打ち切られることはあるのか。

A 今のところ、東京都から時限的な措置であるという案内は来ていないので、基本的には毎年度実施していきたいと考えている。

Q 事業の周知方法についてはどのように行っているのか。

A 現在、市ホームページでの周知を行っている。

→子育て中の方はホームページは気が付きにくいので、子育てひろばなど、それ以外の広報の方法も検討していただきたい。

Q 利用定員について、固定した定員なのか、一日でいろいろなお子さんが混じるのか、一人のお子さんがいろいろなところに行ってもよいのか。

A 利用定員は、1日当たりの施設側で受入れ可能な人数を示している。1人の方が複数の施設を利用

していただくことも可能。

Q 保育士及び職員の配置数は、既存の職員の方で対応するのか、それとも新たに募集をするのか。

A 既存の職員の余力のある部分で従事するか、新たに雇用するかは、施設ごとにご判断いただいている。

Q 保育提供時間が1時間となっている園があるが、どのようなイメージなのか。

A 1時間の中でどのような保育を行うかまでの確認は行っていないが、1時間であっても中身が充実したものとなるように、また、少しずつ時間を広げていけるように調整をしていきたい。

3. 市内幼稚園の新制度への移行について

・事務局より資料3に基づき、市内幼稚園の新制度への移行について説明。新制度への移行は、運営に要する費用を私学助成制度により受けるか、立川市からの施設型給付費として交付されるかという、施設側の事務手続における変更であり、園児や保護者の方への影響はほとんどない旨を説明。

4. 家庭的保育事業の認可について

・事務局より資料4に基づき、家庭的保育室における施設長の変更について説明。

5. 第4次夢育で・たちかわ子ども21プランの実績について

・事務局より12/11の第2回会議でいただいたご質問について、教育委員会やチャイルドラインからの回答を説明。

6. 令和8年度の子どもの権利に関わる事業について

[こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場について]

・「こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場」を令和8年度も実施予定であることを説明。また、令和7年度に採択された各チームの取り組みの進捗について報告。

[子どもの権利条例(仮称)について]

・子どもの権利条例について、令和8・令和9年度に議論を進め、令和10年4月の施行を目指していることを説明。

・条例の検討にあたっては、委員会を立ち上げ、そのメンバーには子どもを含めた公募を行うこと、ワークショップや出張ヒアリング等を実施して子どもへの意見聴取を行うことを説明。

[子どもの自己肯定感などに関する調査について]

(1) 事務局より資料 5-1、5-2 に基づき子どもの自己肯定感などに関する調査の概要について説明。

(2) 委員の方からの主な意見

・問5の相談相手の選択肢に、「AI」を追加した方がよいと思う。

・1ページ目の「施策」のふりがなは「しさく」にした方がよいのではないかと。

・そもそも「施策」ではなく、「今後の計画やまちづくり」といったやさしい言葉に変えた方がよいと思う。

・小学校の授業で自己肯定感について触れることはあるのか。アンケートの内容が唐突感があるので

は。

- ・調査方法を授業内での紙配布からタブレットでの随時回答にしたことで、回収率が下がった。答えないこともその子の権利だと思うが、答えやすい環境をつくるのが大切。
- ・問8の3つ目と、問18の1つ目の選択肢について、「たり」が1個なのか2個なのかを統一した方がよいと思う。
- ・問7について、「思ってくれていると思える人」ではなく、「思ってくれていると感じている人」という表現の方がよいと思う。
- ・問11-1について、「相談するほどでもない」を選択肢に入れた方がよいと思う。
- ・問18に関連して、「人権を大切にされた経験だとか、尊重された経験でうれしかったことはどんなことですか」というような問いがあってもよいと思う。
- ・問1について、「男」「女」「答えたくない」に加えて、「その他」や「どちらでもない」という選択肢を加えた方がよいと思う。
- ・この設問は全て回答必須なのか。問20などは「思いつかない」という選択肢があってもよいと思う。
- ・全体的に選択肢が多すぎるので、少なくするか、短い言葉で書いた方がよいと思う。
- ・問19について、大人側にどういう変化が起こると予想するかという視点が含まれるとよいと思う。
- ・問4について、児童館やくるプレ、子ども食堂が入っていてもよいのでは。
- ・そもそも、この調査を行った結果をどう生かしていくのかがよく分からない。
- ・データを比べるのであれば、5年に1度ではなく、もっと頻度を増やしたほうがよいと思う。
- ・性別の設問について、聞く理由がはっきりしていないのであれば、設問自体必要ないと思う。
- ・子どもたちが答えやすいような工夫や誘導が必要。

7. その他

(1) 委員からの報告

- ・東京都子供政策連携室が実施している出張型ワークショップと出前講座のチラシを配布している。開催に興味がありそうな団体をご存じの方はご連絡いただきたい。

→推進会議の場に、出前講座を呼んだらよいと思う。

(2) 事務局からの連絡

- ・子どもから意見を聴くスキルを身につけるため庁内でファシリテーター研修を実施したことを報告。
- ・保育園や学童保育などの窓口が子ども未来センターへ移転することについて周知。
- ・次回の会議日程は、再度調整の上、連絡する。

以上